

色した長さから濃度目盛りを読む。二酸化炭素(CO₂)濃度はガソリン車が、二酸化窒素(NO₂)濃度はディーゼル車の方が高いことが分かった。

- ・参加者は順にポリ袋を持ったり、目盛りを測ったりして実験に参加し、記録シートに書き込んだ。

<話し合い>

大気環境ネットワーク中央室に戻り、円形になってお互いに顔を見ながら話し合い。排ガス実験の体験を基に、酸性雨や地球温暖化について、日頃の体験や気づいたことなど意見を交わした。

- ・酸性雨が降ったり地球温暖化が進んだりすると、わたしたちの生活や地球がどう変化するか？

酸性雨...樹木が枯れる。雨樋や野外彫刻、地蔵さん、ブロック塀などが傷む。

温暖化...東南アジアの昆虫が北上し、マラリヤなどによる健康被害が心配。農作物も北上？

富山県内のデータでも、降雪の深さが1980年代後半頃から減少の傾向がみられ、ソメイヨシノの開花日がだんだん早くなる傾向が伺える。

- ・自分でできることは何だろう？

- ・きょうは車に乗り合わせてきた。
- ・便利さの目標を10から8ぐらいに下げる。
- ・不便という受け入れにくい。別の視点でその方がリッチだよ、楽しいよと言い換えていかなくちゃ。
- ・歩いて買い物や病院、役所へも行けるコンパクトなまちづくりを。



<終了>

「とやまエコライフ・アクト10宣言」の説明後、終了。

《参加者アンケートより》

- ・地球温暖化と家庭生活との関わりを学ぶことができた。
- ・酸性雨とCO₂、NO₂の関係を、もう少し明らかにしてほしい。
- ・体験することにより、確信が得られた。子どもたちにもこのような体験を。
- ・町の中に出かけて、排気ガスの濃度などを調べてみたい。



《スタッフふりかえり：改善点など》

- ・話し合いの時間があつたのがよかった。疑問についてのフォローもあつた。短時間でまとめるのは大変だ。
- ・話し合いでは焦点が絞れなかった。ワークシートを作り、質問に応じて書いておくと話が進みやすかった。
- ・いわれた意見をホワイトボードに書くなど、見える形にしたらよかった。
- ・排ガス実験とその意味について、最初または終了後にもっと詳しく説明があるとよかった。
- ・データの裏付けが強味。説得力があつた。

(記録：山下久美子)